

足関節内反捻挫受傷後における初診時の片脚負荷テストと スポーツ復帰時期の関連性

○野田 優希 (のだ ゆうき) (PT), 古川 裕之 (PT), 松本 晋太郎 (PT), 小松 稔 (PT),
内田 智也 (PT), 石田 美弥 (PT), 佃 美智留 (PT), 藤田 健司 (MD)

藤田整形外科・スポーツクリニック

【目的】

当院では足関節外側靭帯損傷後, 初診時に機能的重症度を判定するために簡便に実施可能な片脚負荷テスト (One Leg Loading Test : OLLT) を行っている. 本研究は OLLT の有用性を明らかにすることを目的に, OLLT の結果とジョギング開始時期およびスポーツ復帰時期の関連性を検証した.

【対象と方法】

対象は足関節外側靭帯損傷と診断された 274 名 287 件とした. なお対象は受傷から初診までの期間が 1 週間以内の者とした. OLLT は, まず片脚立位が不可能か可能か, 次に片脚カーフレイズが可能か, そして最後に片脚ホップが可能かを判定した. その結果により対象を片脚立位不可群 (78 件), 片脚立位群 (101 件), 片脚カーフレイズ群 (43 件), 片脚ホップ群 (65 件) の 4 群に分類した.

統計学的処理は, OLLT レベル別のジョギング開始時期およびスポーツ復帰時期について, 一元配置分散分析法と多重比較検定 (Tukey-Kramer 法) を用いて比較した. 有意水準は 5% 未満とした.

【結果】

ジョギング開始時期は全ての群間において有意な差を認めた. スポーツ復帰時期においてもほとんどの群間で有意な差を認めた.

【考察】

初診時の OLLT の結果によりジョギング開始時期, スポーツ復帰時期に有意差を認めた. よって, OLLT は足関節外側靭帯損傷後のスポーツ復帰時期を受傷後早期に予測するテストとして有用であることが示された.